



平成 20 年 9 月 25 日

各 位

会 社 名 株式会社クレディセゾン
代表者名 代表取締役社長 林 野 宏
(コード番号 8253 東証第 1 部)
問合せ先 広 報 室 長 岡田 治美
(Tel. 03-3982-0700)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 5 月 16 日及び平成 20 年 8 月 8 日に公表した平成 21 年 3 月期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想数値の修正

(1)平成 21 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）

(金額の単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想 (A)	172,500	27,500	26,500	11,000
今回修正予想 (B)	170,000	26,500	25,500	13,500
増減額 (B - A)	△2,500	△1,000	△1,000	2,500
増減率 (%)	△1.4	△3.6	△3.8	22.7
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 3 月期第 2 四半期)	177,379	32,132	32,975	12,228

(2)平成 21 年 3 月期通期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

(金額の単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	363,000	64,000	62,000	27,000
今回修正予想 (B)	347,000	52,000	51,000	24,000
増減額 (B - A)	△16,000	△12,000	△11,000	△3,000
増減率 (%)	△4.4	△18.8	△17.7	△11.1
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	345,586	57,191	58,111	26,755

2. 個別業績予想数値の修正

(1)平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）

（金額の単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想（A）	134,500	12,500	15,000	8,500
今回修正予想（B）	134,500	17,500	20,000	13,500
増減額（B－A）	－	5,000	5,000	5,000
増減率（％）	－	40.0	33.3	58.8
（ご参考）前期第 2 四半期実績 （平成 20 年 3 月期第 2 四半期）	140,875	18,538	20,728	12,758

(2)平成 21 年 3 月期通期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

（金額の単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	278,000	35,500	38,000	22,000
今回修正予想（B）	275,000	35,500	38,000	22,000
増減額（B－A）	△3,000	－	－	－
増減率（％）	△1.1	－	－	－
（ご参考）前期実績 （平成 20 年 3 月期）	277,741	33,603	36,557	24,578

3. 修正理由

(1)連結業績予想

本日、当社の連結子会社である株式会社アトリウムが開示しておりますとおり、サブプライムローン問題を契機とする、不動産取引の流動性の低下、及び不動産マーケットや株式マーケットの低迷の影響により、アトリウムグループを中心とした不動産関連事業において、販売の鈍化による営業収益の減少、及び投資有価証券等の評価損による利益の減少が見込まれます。これを踏まえ、連結業績予想については下方修正を行いました。

(2)個別業績予想

クレジット事業において貸倒コストが期初の見込みを下回ったことや、ファイナンス事業で収益が期初の見込みを上回ったこと、更には費用対効果をより重視して経費削減に努めてまいりました結果、第 2 四半期累計期間においては、営業利益・経常利益・当期純利益とも上方修正を行いました。

なお、通期業績につきましては、個人消費の伸び悩みの継続等による営業収益の減少に加え、リース会計制度の改正にともなう貸倒引当金の増加等を見込み、ほぼ期初予想通りになるものと見込んでおります。

4. 配当予想について

今回の業績予想の修正にともなう期末配当予想については、現時点で変更する予定はございません。

注) 上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な要因により、見通しと異なる可能性があります。

以 上